

本年度から教育課程特例校として、「光輝(かがやき)」を継続し 子供達の輝きを発信します!

### 本年度研究テーマ

人とのかかわりの中でレジリエンスの育成をめざす幼小中一貫教育カリキュラムの研究  
—子供の受容と共感を促す手立てに着目して—

## 「光輝(かがやき)」で培った 資質・能力

これまで6年間、研究を重ねてきた「光輝(かがやき)」「光輝(かがやき)視点の保育」。子供一人一人の光輝くところを見つめて伸ばす研究をしてきました。この研究のよさは、幼小中の12年間を通して、同じ枠組み(表1参照)で教員が子供達の成長を促し見取ってきたことにあります。

表1 3つの次元(枠組み)と7つの資質・能力

3つの次元	構成する資質・能力
躍動する感性	・人間味溢れる豊かな感覚 ・自ら学ぼうとする姿勢
レジリエンス	・粘り強く取り組む力 ・コラボレーションする力 ・複眼的に思考する力
横断的な知識	・知識と知識を関連付けながら深く追究する力 ・論理的に問題を解決する力

めまぐるしく変化する社会に対応できるように、教員は、常に子供達の姿を3つの次元(枠組み)で見取りながら、競争的でグローバル化された多様性社会を生き抜くための7つの資質・能力をつけようと様々な教育活動を設定してきました。

実際の活動の中では、様々な感情を含む人間らしい豊かな感覚を大切にしながら、自ら学ぶ姿勢を身につけていくことを重視してきました。また、目的をもって他者と協働しながら複眼的な立場で物事を捉え、粘り強く取り組む力を育むことを意識してきました。さらに、学んだことを関連付け、論理的に学びをつなげて問題を解決していく力を付けられるように活動を工夫してきました。

## 人とのかかわりに焦点を当てて

年度当初、資質・能力の育成に関わる成果と課題について、保護者の方々へのアンケート結果や教員の意識から整理をしました。その中で、特に「レジリエンス」に対する課題が見えてきました。例えば、粘り強く取り組む力が弱いこと、自分のクラスの慣れた友達とのかかわりとなるとうまくいかないことが多くなること、自分の思いと違う思いがあるときに人とかかわる難しさがあることなどです。

そこで、豊かな「人とのかかわり」に焦点を当てることで、励まし合いが生まれたり、協働しながら課題を乗り越えようとする姿が広がり、相互作用的にレジリエンスも高まるだろうと考えました。

## 受容と共感を促す手立て

「人とのかかわり」において大切なことは、  
(1) 自分の思いを相手にわかりやすく伝えること  
(2) 相手の気持ちを受容し共感することの2点です。特に、(2)に重点を置くことで、お互いが成長し合っていくことのできる関係性を築けるのではないかと考えました。

私たち教員は、「受容と共感」を「自分の思いとまわりの思いを大切にしながら、色々な立場から相手の気持ちや考えを受け入れ、寄り添うこと」と捉え、人とのかかわりを豊かにすることによって、「レジリエンス」の課題の克服を目指していきます。

「受容と共感」を育む手立てとしては、①受容と共感のある学校園風土づくり、②教師の心構え、③子供同士の受容と共感を促す手立ての3点に整理をしています。

今後、具体的な手立てや子供達のレジリエンスの高まりの姿について、さらに発信していきます。



# 研究だより(カラー版)

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。  
学校園ホームページから、カラー版を閲覧できます。  
よろしければぜひご覧ください。



学校園ホームページ「幼小中一貫教育研究だより」URL

[https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu\\_mihara/R6kenkyudayori](https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/R6kenkyudayori)

# 研究だよりの アンケートにご協力ください

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。  
子どもたちのよりよい学びにつなげるため、こちらのアンケートにご協力をお願いいたします。



アンケートフォームURL

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=3VQExGOyJkmGjY4SZA03UKpYIHZnZZ1AjvyvddUtsUIUQVI5TVI0NVhKTVhGWIJBQUZFUko0Q0ZVUy4u>